



日々の食事を
カネタの製品で
豊かにしたい

頼もしい先輩である佐藤明香さん（左）あと「楽しく商品開発に取り組んでいる」と話す工藤さん。

product

入社2年目で難関だった スープカレー商品化を実現

ケーエスフーズでは、商品開発室所属の3人のうち、工藤さん、佐藤さんの2人が本社に常駐する。メンバーは1週間に1度行われる開発会議に向け、試行錯誤を繰り返す。

自社商品を
使ったレシピ
づくりも
積極的に
行う



南三陸町が創業の地 家庭にのいしさを届ける グループの中核会社

宮城県の食材を生かした珍味や海苔、乾物などを製造、販売するカネタグループは、販売会社の株式会社カネタ・ツーワンを中心に、国内に株式会社東北かねた、株式会社サンキョーフーズ、株式会社ケーエスフーズと3つの製造拠点を構える。このうち、カネタグループ創業の地である南三陸町にあるのがケーエスフーズだ。松前漬やにしん菜の花などの生珍味、鮭フレックや焼き塩さばといった瓶詰め商品、味噌汁の具シリーズや乾燥昆布などの乾物、さらには、たこやわかめの加工品と、扱い品目は実に多岐にわたる。商品開発室では、日夜、新たなおいしさを生み出そうと研究が進められている。この秋には、かつて実現が頓挫したスープカレーがついに商品化され、新たなヒット商品へと大きな期待がかかる。

2011年の東日本大震災では大きな被害を受けた。本社工場も

水に浸かり、第二工場は流失。それでも、震災翌年の12年5月には本社工場を増築して稼働規模を拡大し、さらに14年4月には新たな第二工場を完成させている。食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるISO22000を取得。HACCPの食品衛生管理手法を導入し、安全なフードサプライチェーンの実現に日々努めている。「おいしさ」「健康」「安全」を徹底的に追求する姿勢は、商品開発から製造まで一貫している。

仕事 図鑑

#01
ACE.

株式会社ケーエスフーズ（南三陸町）
商品開発室 商品開発担当
工藤 紀香さん（20歳）
Norika Kudo



より多くの人に “おいしさ”を届けたい

株式会社ケーエスフーズはカネタグループの一員として、乾燥珍味、生珍味、海産・乾物具材の製造を担当する。1979年10月に設立された株式会社田畑海苔店が企業としての始まり。2002年にケーエスフーズに名称変更している。基本理念の一つに「豊かな食生活の担い手として、新しい価値を創造し続ける」を掲げ、日夜、その実現に励んでいる。

工藤さんはクッキングスケールを使って正確に食材の分量を量る

楽しい食事を提供する
一助になりたい



開発、調理に使う器具の扱いは既にお手のもの。
家庭における日々の食生活をより充実させようと、工藤さんは日々、開発業務に励む。



衛生検査も
工藤さんの
大切な仕事のつ

調理が好きで商品開発にも向き

日常の夕飯づくりが想像力を鍛えた
アイデアを形にする楽しさで毎日が充実

工藤紀香さんは入社2年目。登米市出身で、登米総合産業高等学校の商業科を卒業している。幼い頃を振り返り、「食べることが本当に好きな子どもでした。嫌いなものもなく、おかげで、小さい頃は縦にも横にも健やかに育ちました(笑)」と話す。

また、成長するにつれ、料理を作ることに興味を持つようになり、自然に包丁を握り始めた。「高校時代はよく家族の夕飯を作っていました。今もそうですが、当時から「今日はこれを作るぞ!」と

考えて食材を用意するのではなく、冷蔵庫にあるものを見て、これをこいうふうにつくったらおいしくなるんじゃないかなと考えて作るのが好きでした」

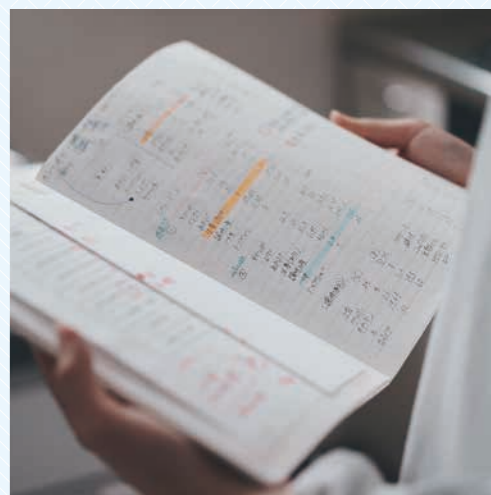
今、ケーエスフーズの商品開発室に所属している工藤さんにとって、この経験が業務に生きていけるのではないだろうか。新しい食品を創造するために欠かせない想像力は、大いに鍛えられたはずだ。「充実した日々を送っています」と、笑顔が実に柔らかい。

スープカレーの開発を担当
おいしさを突き詰める楽しさを体験
開発者として商品化の実現が自信に

商品開発室に所属して1年8カ月がたった工藤さん。「私はなんでもおいしく感じてしまっ、当初は商品の完成度の高い低いが、あまりよく分かりませんでした」

と笑う。それでも工藤さんは、開発を休止していたスープカレーを担当し、見事、商品化へと導いている。「スープカレーの開発はすごくいい経験になりました。納得のいく確かなものが作れて、本当にうれしいです」

工藤さんの武器は分量や食品投入の順番など、気付いたことを記した『開発ノート』だ。「入社時から比べて書くことが細かくなっています。学生時代よりいっぱいメモを取るようになりました(笑)」。これからまだまだ、工藤さんは様々なおいしさを味わわせてくれるはずだ。



工藤さんが何より大事にする開発ノート。「だんだん書くことが細かくなっていきました」と話す。

製造担当者との情報交換は欠かせない



教えてください! ACEの仕事ぶり

明るく素直で
時にトリッキーなこともします!
個性が商品開発にも生きてます



上司に
聞いてしまいました!

商品開発室
佐藤明日香さん Asuka Sato

とにかく明るく、素直で、一緒に仕事をするのが本当に楽しいです。どこかマイペースで時々、トリッキーな行動や発言があるのがチャームポイント! 会社には笑顔を届けてくれていきます。仕事ぶりはとても真面目で、頼もしく感じています。私が入社してから初めてついた部下でもありますが、共にいろいろなことに取り組むことで、私自身も上司としての自信を付けさせてもらっています(笑)。商品開発は難しい仕事ではありませんが、得られる喜びも本当に大きいものです。これから、もっともっとうろろいろいろなことを勉強して、ますます商品開発にのめり込んでほしいと思います。

センパイから!

未来の
ACEへ!

最後の決断は絶対に自分自身ですべきです
自分で決めたことに人は甘えないと思います

私は調理が好きで、調理学校への進学も考えたのですが、そこでは私が取得したい資格が取れないこともあり、就職へと切り替えました。食品関係の仕事を探して、見つけたのがケーエスフーズの商品開発の求人でした。今、すごくいい会社に就職できたと思っています。私は何かを決めるとき、最後は自分で決めることが大事だと考えます。自分の決断は誰かが大事にするのではないのでしょうか。やってみて駄目ならまた自分で決めて、次へ動き出せばいいと思います。



高校時代はいろいろなことにチャレンジ! 社会人への準備期間でした

「もともと料理が好きで、家族にも振る舞っていました。自分の好きなことを仕事にできて今、充実しています」と工藤さんは笑顔だ。

DATA

株式会社ケーエスフーズ

所在地/本吉郡南三陸町戸倉字流の沢 50-1 □代表取締役社長/西條 盛美 □資本金/1,000万円 □設立/1979年10月
従業員数/70人(2021年11月現在) □事業内容/乾燥珍味、生珍味、海産・乾物具材などの製造、製品開発
基本理念/「新しい価値の創造」「おいしさ・健康・安全」「全員参加 共存共栄」
TEL 0226-46-8111 <https://www.kaneta-group.co.jp/>



おいしさと健康を求め
本当に喜ばれる安心・安全な商品を届ける



社会で役立つ
生産設備を
質高く提供したい

「カスタムメイドが基本の生産設備。何より精度が自信につながっています」と話す八木さん

product

世界に一つしかない 設備装置の製作に 情熱を傾ける

産業機械のカスタムメイドを主事業とし、電子機器、自動車分野の生産設備に関わる装置を数多く手掛ける。高い顧客満足度を実現するため、営業、設計、製造が三位一体となって案件に取り組む。

工具を駆使して
安全に装置を
組み立てる



個人設計事務所からスタート
高い技術とノウハウで
顧客ニーズに答え続ける

代表取締役の湯澤哲雄さんが1979年12月に仙台市小鶴に1人で立ち上げた設計事務所が企業の始まりだ。翌年には仙台市五輪に事務所を移転、同時に工場も立ち上げ、産業機械の組み立ても行うようになった。さらに、その翌年81年には株式会社技研エンジニアリングサービスを設立した。

利府町に組立工場を設けたのが1991年のこと。93年には本社、工場を利府町に移転統合。これにより社内の意思疎通をさらに速く図れるようになった。2000年には社名を株式会社ジー・イー・エスに変更。この意図は、これまで以上のグローバル展開を見込んでのことだ。

ジー・イー・エスの取引先は多岐にわたる。ソニーやパナソニックといった日本が誇るグローバル企業から、東京大学、東北大学をはじめ、アメリカのスタンフォード大学や、ジョンズ・ホプキンス大

学などにも製品を納品している。創業者の湯澤さんは「生産設備や研究・開発設備はお客様の要求する仕様を満たすことは当然ですが、精度の再現性や信頼性、操作性や安全性に加えて環境対応や経済性など普遍的な機能が必須となります」とした上で、「私たちは設備サプライヤーとして、そういった「当たり前」のことを当たり前にやる」をモットーにこれからもお客様の良きパートナーであるよう「精進します」と意気込みを語る。

「Made in Miyagi」をスローガンにジー・イー・エスは世界中の製造業を下支えし続ける。

持ち前のチャレンジャー精神で 生産設備製作の世界へ たゆまぬ努力で信頼獲得

「超技術者集団」を掲げる株式会社ジー・イー・エス。省力化生産設備、理化学機器の設計・製作を手掛ける。その技術の確かさは国内にとどまらず、海外からも高い評価を受けている。蓄積してきた知識とノウハウを生かし、製造業を支えていく。

「特集」ものづくりにかける
仕事
図鑑
#02
ACE.

株式会社ジー・イー・エス(利府町)

製造本部製造部 組立担当

八木翔太さん(27歳)

Syota Yagi



八木さんは細心の注意を払い、いわゆる「一品物」の各種生産設備、装置の組み立てを担う

日々新たなことに挑戦し
自分の成長を知るのが楽しい



分からないことはためらわず先輩・上司に聞く
躊躇せず教えを請い、積極的に先輩・上司とコミュニケーションを取ることで
少しずつ専門用語の意味も分かるようになってくる。



やる気があれば
図面も徐々に
読めるように
なります！

東京から実家へ戻りジー・イー・エスの求人を見つけた
自分の知らない世界に興味が出た
やる気があれば何事もなんとかなる！

27歳の八木翔太さんがジー・イー・エスに入社したのは2017年9月のこと。中途採用で同社に入社している。もともと高校卒業後は、東京の送電系の企業で働いていた。実家に戻ると同時に、就職活動を開始、その中で出会ったのがジー・イー・エスだった。「省力設備の設計・製作とか、産業機械を作るとか、全く自分の知らない世界だったので、だからなのでしょう、面白そうだなと、すごく興味が湧きました(笑)。試験を受けて、入社できることになって、

やっぱり大変そうだなという思いもありましたが(笑)、ワクワクしている自分がありました」

持ち前の明るさで、配属された部署ですぐに存在感を高めていった八木さん。先輩たちにとんどん質問し、知識も技術も吸収していった。「やる気があれば何とかなるものですね。同じ言語なのかとさえ感じていた先輩たちの話す専門用語も、いつの間にか聞き取れるようになりました」

知識も技術も着実に習得してきた
今までにいない万能家(シエネラリスト)の道を
八木さんがしっかりと切り開いていく

貪欲に仕事に取り組んだ結果、スキルは高まり、会社からの信頼も当然厚くなっていった。そこで見込まれたのが、シエネラリスト(万能家)への挑戦だった。

「産業機械を製作するのに役割は、筐体の組み立て、電気系統、ソフトウェアと大きく3つ分野があります。今はそれぞれスペシャリスト(専門家)がいて製作していますが、横断的に携われる人がいると仕事の効率は上がります。例えば、取引先に点検に行くときも3人で行くところを究極的には1人で済むようになります」(八木さん)。この取り組み自体、ジー・イー・エスでは初めてのことで、八木さんは第一者としてその役割をしっかりと果たすだろう。



何かが気になることがあれば逐一確認する

明るいキャラクターの八木さん。甘え上手で、職場でかわいがられている



教えてください! ACEの仕事ぶり

物おじしない性格で
“おじさん先輩”たちと
とても仲良くしています



上司に
聞いてちゃい
ました!

執行役員 製造本部製造部部長
菅野 篤史さん Atsushi Kanno

物おじをしない性格が非常に良いです。八木くんよりずっと年上のいわゆる“おじさん”が多い職場ですが、いじり、いじられ、笑い合っている様子を見ると、いい青年だなとつくづく感じます。仕事ぶりは実に真面目で謙虚、そして、積極性があります。その上で素晴らしいなと思うのは、何事もしっかりと聞いて、メモを取ることです。その姿勢からも彼が真剣に仕事に取り組んでいることが分かります。今、彼には、スペシャリストの中のシエネラリストになってもらいたい。メカニクスも、電気関係も、ソフトウェアも全部に携われる技術者になってほしいです。

センパイから!

未来の
ACEへ!

やりたいことがあるなら
まずそれをやれる所を探せばいい



分からないことは
聞くのが一番
それがコミュニケーションの
前提です

「産業機械の製造って難しそうの世界だな、とは感じましたけど、思い切って飛び込んでみて良かった」と笑顔の八木さん

送電分野の企業で仕事をしたいと東京の会社に就職しました。そこでは5年ほど働いたのですが、とても良い経験になりました。地元・宮城に帰ってきたのは、母子家庭で育ったので、母親のそばで仕事したいと思ったこと、地元貢献への思いもありました。産業機械製造の分野は全く知りませんでしたが、求人案内を見て、どこか面白そうだなとワクワクしました。自信はなの中で、やってみないと飛び込んでみた結果、とても毎日が充実しています。悩むことはほとんどにして、行動することが大事だなと感じています。

DATA

株式会社ジー・イー・エス

所在地/宮城県利府町しらかし台6-4-4 □代表取締役/湯澤 哲雄 □資本金/3,200万円 □設立/1979年12月
従業員数/52人(2021年10月現在) □事業内容/省力設備の設計・製作、理化学装置の設計・製作
経営理念/「小規模でも技術力で大企業に比肩できる地域に根付いた国際企業を目指そう」
TEL 022-356-1455(代表) http://www.ges.co.jp/



株式会社新栄商事(栗原市)

縫製担当

菅原 ななさん (20歳)

Nana Sugawara



ミシンを器用に操りシャツのスリット部の縫製を行う菅原さん
ミシン操作には丁寧さと正確さが求められる。ソーイングスペースに注目しつつ、全体的な動作にも気を配る。

ひと針に全神経を
集中させます

1979年に創業した新栄商事。スポーツウエアや紳士、婦人、子ども服など各種有名ブランドの製造を担当する企業として、宮城県内にとどまらず、全国的にも注目を集めている。社員に行き渡る高品質を追求する意欲が、会社の財産となっている。

好きな裁縫を仕事に！
貪欲に技術習得に励む
社内で頼られる人になりたい

ミシンを使い、迷いなく、シャツのスリット部を縫い上げていく。高い集中力で、一心不乱にその作業に没頭している。「新栄商事で縫製の仕事ができて、今すぐ充実しています」と笑みを見せる。

「流れ作業」の中の自分の責任の大事さを忘れない
新栄商事では裁断からアイロン掛け、梱包までそれぞれ係があり、各々の役割をしっかりと果たした後、次工程の担当へ仕掛品を委ねる。

生活に欠かせない衣類を
作ることに喜びを感じる

菅原さんは高校三年生の時、具体的に就職先を探すにあたり、自分に何ができるのか、何が好きなのか、考えを巡らしたという。そうして「小さい頃から、フェルトで小物を作ったり、裁縫が好きだったりしたことにふと思いついて、それで自分が進む道はこれだと思いました」。求人情報を見ていると、そこに新栄商事があった。裁縫は好きでも、ミシンはあまり使ったことがなかったという菅原さんだが、先輩の川村香菜さんいわく、「物覚えは抜群に早い」とのこと。「これまで失敗して落ち込んだこともありませんでしたが、それを今に生かしている自分があります。まだ全ての工程や作業をできるわけではないので、なるべく早いうちに何でもできるようなって社内で頼られる人になりたいです」と菅原さんは理想を掲げる。目標を明確に持ち、それに向かって突き進む菅原さん。未来を明るく切り開いていく。

教えてください！ ACEの仕事ぶり

手先がすごく器用！
教えたことは何でも1回で覚えるんです



縫製担当
川村 香菜さん
Kana Kawamura

上司に
聞いてやりました！

彼女が入社したとき、どう教えていったらいいのかなど迷うまでもなく、一度教えたことはすぐにできてしまっただ、「これはすごい新入社員が来た」というのが第一印象でした。私のスキルなんて、すぐ追い越されるなど、正直思いました(笑)。それぐらい本当に物覚えがよく器用で、とても驚かされました。性格は朗らかで、職場の雰囲気はすぐに慣れ、その点も素晴らしいなと思っています。入社2年目で、働き始めてまだ1年半ちょっとですが、既に技術レベルはすごく高いものがあります！これからも高い意欲を持って、一緒に新栄商事をより良くできるような頭張っていただけると考えています。

product
着心地良く
高品質の衣類を作り続ける

新栄商事では、何より品質の確かさと着心地の良さに重点が置かれる。先輩から後輩へ、その精神が確かに受け継がれている。



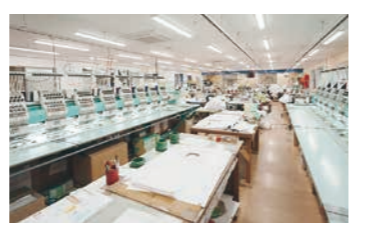
何より大事なものは品質
より良い製品になるよう
メーカーに意見もいとわらない

有名ブランドの紳士、婦人、子ども服の製造を手掛けるほか、特にヨネックスなど有名スポーツブランドのウエア製造で広く名を知られる株式会社新栄商事。衣類メーカーから委託を受ける縫製工場として独特の存在感を放っている一因に、「クライアントにも意見を言う」(高橋宗明社長)姿勢がある。「メーカーからサンプルが送られてくるわけですが、私たちはここをこうしたほうがもっと良くなるよとか、量産しやすいだとか、意見をきっちり出します」。さらに、「必要とあらば、加工費の値上げ要求もします。もちろん、どうしてもそれが必要なものの根拠はしっかりと示します」。そうしたトップの姿勢は社内にも良い影響を与え、製品の質をより高めるべく、社員同士が切磋琢磨し合っている。強い絆で結ばれ、様々な社内イベントはいつも盛況だ。

菅原ななさんが、この新栄商事の仲間に加わったのは2020年4月のことだ。「もともと縫い物は好きだった」菅原さんは今、着実に成長を続けている。

DATA 社員の技術向上への意欲が会社を支える

株式会社新栄商事
所在地/栗原市志波姫南八幡16-3 □代表取締役社長/高橋 宗明
□資本金/300万円 □設立/1979年4月10日 □従業員数/27人(2021年10月現在、役員除く)
□事業内容/スポーツウエアや紳士、婦人、子供服などの製造
□企業スローガン/自分たちで考え、自分たちで作り上げる
TEL 0228-25-2322 http://www.shinei-syouji.com/



有限会社エスブランド（丸森町）

製造技術課加工担当

小野 成一さん（26歳）
Seichi Ono



機械を使い加工作業を行う小野さん
「車の部品を作りたい」というのが製造業への就職を選んだ最初の理由。そこからものづくりの魅力にのりこんでいった

憧れのものづくりの世界
部品加工に精力を傾ける

産業用機械製作の提案、設計、製作、アフターフォローを主事業に、1997年6月、丸森町で操業を開始した有限会社エスブランド。蓄積された技術と知恵を結集し、多様な要望に応じたサービスを提供。生産性の高い製品を生み出し、日本ひいては世界のものづくりの土台を担う。



難しい加工ができたときの達成感はとてつもない
加工作業の中でも小野さんが特に好きなのが旋盤加工。先輩からのアドバイスを書きとめたメモを見返しながら、回転速度などを自分なりに調整し、慎重かつ丁寧に切削を行っている。

野球で培った人間力を発揮
何事も意欲的に学び
頼られる先輩になりたい

小野さんは幼少期から野球に打ち込み、宮城県農業高等学校ではエースとして活躍した。スポーツを通じて培った人間力が大いに発揮され、同僚や先輩、さらには外国人エンジニアとも笑顔で交流。持ち前のコミュニケーションスキルで社内を明るくしている。

大好きな加工の仕事を
これからも極めたい

これまで、旋盤加工、フライス加工など、さまざまな種類の加工作業を経験。すっかり仕事も板に付いてきたが、もちろん入社当時は全くの素人で、失敗もたくさんあったという。しかし、小野さんは、それらを糧にして、何事も意欲的に学ぶ姿勢が評価されている。「分からないことがあれば、とにかく先輩に聞くようにしています。先輩も優しい人ばかりで、丁寧に教えてくれるので助かっています」と感謝を述べる小野さん。「同じことを二度聞くことはないように」と必ずメモを取るようにして、多くのことを吸収しようと努めている。「今は先輩に頼ってばかり。先輩ができたときに頼られるような存在になりたいです」。ものづくりに魅せられた若者の瞳は、まばゆい輝きに満ちあふれていた。

教えてください！ ACEの仕事ぶり

会話のキャッチボールができる明るい性格が持ち味
恥ずかしがらずに堂々と質問する姿勢も好感が持てます



営業・製造部部长
板垣 昌利さん
Masatoshi Itagaki

上司に
聞いてやりました！

いつもハキハキしていて元気がよく、声も通ります。周りも話しかけやすく、会話のキャッチボールができる明るい性格が何よりも彼の持ち味です。それに、新人なので分からないことがあるのは当然ですが、それらを恥ずかしがらずに堂々と質問してくれま

product
幅広いニーズに対応
高品質の製品を生産

同社で生産する製品はほとんどがオーダーメイド。コストや安全性に配慮し、お客様が満足する製品の提供に尽力している。



産業用機械を自社で一貫製造
企業から個人のお客様まで
多種多様なサービスを提供

産業用機械の製作を主な事業としている有限会社エスブランド。「製品を作るための機械設備」を作っている会社で、お客様との打ち合わせから、提案、設計、部品の調達、加工、組付、アフターフォローまでを一貫して行い、企業の多様なニーズに対応している。また、工場設備や各種産業機械の保守保全も業務の一つであり、性能維持、故障防止のサービスを提供。企業だけでなく、個人のお客様からもオーダーが寄せられるほか、同業者の信頼も厚く、宮城の最南端の町で大きな存在感を放っている。

昨春秋、中途採用で入社したのが小野成一さんだ。以前は製造業でライン作業に従事していたという小野さん。そこで、ものづくりの楽しさに出会い、「自分でものづくりを作ってみよう」という衝動に掻き立てられた。その後、知り合いが勤めていたエスブランドの仕事が「自分がやりたいことにピッタリ」と入社を決定。会社に入り1年、今は部品加工を担当しており「いろいろな機械を扱えるのが楽しいです」と充実した日々を過ごしている。

DATA 「創造力×技術力」で各産業界のビジネスを支える

有限会社エスブランド
所在地 / 伊具郡丸森町金山字角 / 内2番地 □代表取締役社長 / 佐藤 志郎
□資本金 / 300万円 □設立 / 1997年6月 □従業員数 / 62人 (2021年11月現在)
□事業内容 / 生産設備・省力機械・自動化装置の設計、製造など
TEL 0224-79-3280 <https://www.s-brand-s.com/>

